

第三十 一回川柳の会」(つばやまの会)

場所 西花苑コミュニティ集会室

講師 桜井 亮先生指導

日時 十二月二日(木) 一四時～十六時

定員 十五名(会員募集中) 雑詠 五句投句持参のこと
投句(短冊に書く) 浄書(きれいに書く)
選句(自分の投句を外す) 披講(選んだ理由を発表)

○投票で 一席・二席・三席決定
席(四点句)

○ひいた風邪他人に移して直ぐ治し。

○体重計片足だけで乗ってみる。

二席(三点句)

- 効かないがちゃんと出てきた副作用。
- あきらめて買えば出てくる失くし物。
- 衣替え腰の閉所が気に掛かり。
- つますいた段差に歳を教えられ。

三席(一点句)

- もの忘れ係には客荷のせいにする。
- 秋彼岸布団入れ替え天日干し。
- 飲みだすと又あの話聞かされる。
- 墓参りおはき供えて毒味する。
- 携帯を忘れしはしの解放感。



- じいちゃんもいたAKBの握手会。
- 朝露に捕えて蜘蛛の巣空に張り。
- 芒までおいておいての選挙です。
- やっぱり妻がつぶやく俺の下痢。
- 空耳に思わず返事視線浴び。
- 残り火の恋が子口子口老人荘。
- 弁当を忘れ怒られ晩飯に。
- きれいごと訪問妄想木犀香。

無点句

- 母娘して忘れ物探す我が家かな。
- 物価高年金さがる年がくる。
- 蜘蛛の巣やトンボ捕えて空に張り。
- お互いにこの人変と思ってる。
- 数にかけ公約そっち烏合の衆。
- 美人だととくに親切老いの医者。
- 朝薬屋夜薬と薬漬け。
- 老獺は痴呆と忘れ使い分け。
- レンタル器そちらの覚へさこと移動。
- 新党に濡れた人こそ役にたつ。
- 秋風や水面拭き抜けきらめ煌かせ。

十月五日 川柳の会での投句です。」